

海老名市立杉久保小学校 学校運営協議会 議事録

(令和6年2月7日)

- 1 日時 令和6年2月7日(水) 10:00～
- 2 場所 海老名市立杉久保小学校校長室・体育館
- 3 出席委員 伊藤 健三 委員長、山室 修次 委員、金子 由美子 委員、
前田 正晴 委員、岩崎 佐容子 委員、山口 光康 委員、
川口 竜史 委員、坂野 千幸 委員

4 会議の内容

(1) 挨拶より

伊藤委員長：1月23日(土)子どもの森の整備お疲れさまでした。

前田委員：崖の上の作業は危険が伴う。安全のため、ワイヤーなど命綱をつけての作業が望ましい。ヘルメットも必要ではないか。

坂野委員：次年度予算で検討します。

(2) 学校の様子について (途中、音楽集会の参観あり)

① 令和5年度全国学力学習状況調査 本校結果について

前田委員：(読書習慣が身につけている児童が多い実態から)有志ボランティアによる「読み聞かせ」は大変効果があると思う。ぜひ続けてほしい。

伊藤委員長：(朝食と学力の相関関係があるという結果から)秋田県では基礎的生活習慣が身につけていることから学力が高いことがわかっている。朝食を「食べていない」という子は、ただ食べる時間がないというだけでなく、家庭環境の状況にも因るかもしれない。地域の力が必要な場合も考えられる。

山室委員：(家庭学習の習慣があまりついていない現状から)まなびっ子では、タブレット学習している児童も多く、入っている教材は通常学習、発展学習と選択して自分で進められるようになっている。1・2年生でもタブレット

学習を進めている子が増えてきた。家庭学習でタブレットの活用を進められると効果的だと思う。学力向上については、全体的な底上げを図っていくことが課題だと思う。

前田委員：タブレット学習は効率的に進められるのか。インターネットも使えるのか。安全性はどうか。

山室委員：ICTについては、積極的に進められる子がいる。

坂野委員：扱いは子どもたちの方が大人よりものみ込みがよく早い。市教委で全てのタブレットにフィルタリングをかけていて安全性は保っている。

山室委員：ICT教材の発展的学習は、先生がどう関わってフィードバックしているかがカギ。双方向になるよう、先生の指導に活用していくとよいと思う。

金子委員：孫も、家のタブレットを学習で使っていて慣れている。学校のタブレットとは使い分けている。先生が全ての子どもたちのタブレット学習をどう確認しているか。大変かと思う。

川口委員：(読書活動が進んでいる点について)何の本を読むと勉強になるのか、何を読めばよいのかを知りたい。

金子委員：図書室の本は半分はコミックのような感じの本。夏休みの図書で漫画を読んでいる子もいる。

坂野委員：低学年向きには、わかりやすく漫画のような絵の本が多いかもしれない。

金子委員：活字を読むことのとっかかりとして、まずはそこからでよいのではないかと娘(孫の母)も言っている。字と絵を両方読むのは、ある意味すごい力かと思う。

金子委員：国語の力が伸びてきたことは大きな成果だと思う。算数も国語力が必要。孫は、算数の計算はできるが、文章題は苦手としている。

岩崎委員：算数は、一度苦手意識を持つと克服することが難しい。興味がないとできない。学校ではぜひ算数の「楽しさ」を子どもたちに教えてほしい。算数の内容は系統的で積み重ねなので、つまずきのないようにできればよい。

山口委員：(質問紙調査から)「人の役に立ちたい」子どもが多いのはよいことで、

コミュニケーション能力などさらに伸ばしてあげたいと思う。物事を真面目にとらえすぎてコミュニケーションがとりづらい人もいる。地域など人とのかかわりを大切にするとよいと思う。

前田委員：コミュニケーションについての問題は、不登校などにもつながっているかもしれない。地域でも交流する場があるとよいと思う。

② 令和6年度特色ある学校づくりに係る予算について

伊藤委員長：(地域連携予算について)平井校長の時、3世代交流コーラスを行い、市民音楽祭で文化会館のステージで披露した。そういった地域と子どもたちとの交流活動があるとよい。

金田委員：地域は子どもと関われるだけでもありがたいと思う。

伊藤委員：「こどもの森」の取組は、ぜひ進めてもらいたい。学校創設当時の教育長の意向で敷地内に残った森である。

岩崎委員：こどもの森を使った授業を展開してくれれば、卒業した子たちがずっと森を大切にしたいという気持ちになると思う。ぜひ進めてもらいたい。

坂野委員：先日の森の整備にも卒業生が何人か来ていた。これからも増えていくとありがたい。

伊藤委員長：学校の次年度の計画がよくわかった。予算を効果的に使って次年度の学校教育活動を進めてもらいたい。

③ その他

山口委員：PTAとして、様々な場面で改めて地域の皆さんと関わったことはとてもよかった。人とのかかわりに感謝しなければとつくづく感じている。

金子委員：子どもと直接関われることはありがたい。役に立つことがあれば、ぜひやりたい。

山室委員：自分も、いろいろな形で子どもたちに関わっている。モジュール学習試行など、新しい取り組みについては、本格実施に向けて、いい形でやって

いると思う。学力向上の取組に向け、先生たちの意欲が上がっているのだろう。今日の音楽発表会の子どもたちの発表の内容はとても良かった。活気づいていて、子どもたち一人ひとりの発表の声もよく通っていた。学校に新しい風が吹いているのがわかる。

岩崎委員：子どもたちとこれからも関わり、役に立てればと思っている。学校運営協議会の中では、普段見られない子どもたちの姿も見られてよいと思う。

山口委員：P T A行事の参加が、コロナの影響によって減ってしまっている。保護者の皆さんにはもっと身近にとらえてもらい、来てもらいたいと思っている。

川口委員：今年、P T A本部として初めて活動した。これまで学校やP T Aのことで知らなかったことが多くあったが、いろいろと教えてもらい、やってこられた。来年度、もう1年頑張っていきたい。

金子委員：他校ではP T A組織がなくなったと聞いているが。

岩崎委員：なくなっていないが、学校応援団が主で動く形になり、応援団の負担が増えたと聞いている。P T Aの在り方も、今後変わっていくと思う。

伊藤委員長：子どもたちあつての親、学校、組織であることを忘れてはならないと思う。

山室委員：P T Aの活動をボランティアの形にすると、調整等かえって大変になると聞いている。P T Aの在り方を変えているところに、その影響など、情報があるとよい。

④ まとめ

伊藤委員長：自分は常に、「自分を変えるときは変えないといけない」と思っている。それには、「どれだけ感動するものに出会えるか」ということを大切にしている。今日、発表会の子どもたちの姿を見て、子どもたちのために元気に頑張らないと、と強く思った。子どもたちも、それぞれの発表を聞きながら感動している。子どもは感動すると変わり、成長する。感動体験をどれだけ学校が作れるか、が大切だと思う。そのためには、私たちもこれからできることを、お互いに知恵を出し合って、やっていくことが大切

だと思う。

(2) その他

① 次年度の委嘱について

- ・本委員は2年間の委嘱のため、今年度末で全員解任となる。
- ・次年度より、改めて2年間の委員委嘱をお願いしたい。 →全員了承

② 次回の日時・内容について

- ・令和6年4月～5月を予定
- ・令和6年度学校経営方針について